



Society for Neuroscience (SfN) Annual Meeting 2016 参加報告

広域科学専攻 博士課程3年 内海良子 (深代研究室)

「博士課程学生のための国際研究集会渡航助成」の支援を受け、第46回北米神経科学学会（サンディエゴ アメリカ、2016年11月12日-16日）に参加させていただいた。今大会には、脳や神経系など神経科学分野に関わる研究とその発展を目指す研究者・企業関係者らが世界各国から集まり、およそ3万人の出席者による研究発表や活発な情報交換が行われた。

私は運動制御に関わる部門にて、「Effects of shoe heel height and heel areas on gait」という演題で、バイオメカニクスの動作解析手法を用いて歩行動作について言及した研究成果を発表した。非常に大きな学会である故、異なる実験手法や解析アプローチ、視点を持った方々からご質問やご意見をいただき、私自身の研究における不足点や課題を認識することとなった。また同時に、様々な国の研究者の方が私の発表に足を運んでくださったことや、かけていただいた温かいお言葉に大いに励まされた。

私は、日頃より中学高校生を対象に研究活動やサイエンスリテラシーの啓蒙活動を行うなかで、同じ専門分野における研究者間で情報の交換や共有するだけでなく、社会に伝えることの重要性を感じている。今回の学会参加を通して、多岐にわたる専門分野を持つ方々に、的確に伝え、ご意見を頂くこと、また多角的な視点で研究を考え進めることの大切さも強く実感することとなった。

また本大会中のポスター発表や口頭発表を通して、脊髄損傷や再生医療などの医療分野の研究内容を伺うことが出来た。つい最近まで不可能と考えられていた脊髄の神経細胞再生に関わる議題は、個人的に大変興味深い内容であるとともに、脊髄損傷患者のリハビリテーションの一端を担うバイオメカニクスの動作解析の重要性を改めて認識することとなった。

今大会は、世界に大きな衝撃を与えた米大統領選挙のわずか数日後に開催された。政治的問題や、言語、人種の違いを越え、国境を越えて世界中から集まった人々が研究発展を目指して集い討論する姿には大きな刺激を受けた。このような場に参加する機会をいただいたことに感謝し、社会への貢献を目指し、研究活動に目標を持って取り組んでいきたい。



サンディエゴの街並み（学会会場付近）



ポスター形式での発表